

埼玉県SDGs官民連携プラットフォーム

# 「埼玉の豊かな水とみどりを守り育む」分科会に係る研修会

## 「SDGsと自然共生サイト」

\* 人を守り、生きもので賑わう調節池・遊水地を \*



【日時】 2023年 **3月23日** (木) 13:30~15:30

【会場】 武蔵野銀行 本店 2F 「M's SQUARE」

→大宮駅西口よりペデストリアンデッキ徒歩5分

※オンライン (Zoom) 参加も可能です

【主催】 埼玉県、(公財)埼玉県生態系保護協会

【参加費】 無料

【お申込み】 ※要事前申込み

[こちらのGoogleフォームからお申し込みください](#)

【お問合せ】 埼玉県県土整備部河川環境課 / TEL:048-830-5112

(公財)埼玉県生態系保護協会 / TEL:048-645-0570

## プログラム (予定)

- 開催趣旨説明：(公財)埼玉県生態系保護協会 事務局長 前田博之
- 基調講演：「自然共生サイトの今後の動向と生きもの賑わう調節池・遊水地とは」  
(公財)日本生態系協会 専務理事 関 健志
- 事例紹介①
  - ・ 戸田ヶ原自然再生事業 / 戸田市 みどり公園課長 岡安敦志
  - ・ 芝川第一調節池 / さいたま県土整備事務所 担当部長 上田貴司
  - ・ 荒川太郎右衛門自然再生地・三ツ又沼ビオトープ / 河川環境保全モニター 堂本泰章
- 事例紹介② (生物多様性に貢献する県内企業・団体の取組)
  - ・ 武蔵野銀行 / サステナビリティ推進室長 高倉啓
  - ・ 凸版印刷 / 製造統括本部エコロジーセンター 芳住啓
  - ・ サイサン環境保全基金 / 事務局長 櫻井郁夫 (敬称略)



昨年12月、生物多様性条約第15回締約国会議・第2部において、2030年を期限とする新たな世界目標のひとつとして「30by30」、すなわち世界の陸と海の30%以上を生物多様性のために守ることが合意されました。埼玉版SDGsの重点テーマである「埼玉の豊かな水と緑を守り育む」は、この合意事項に基づいて、生物多様性の保全を前提に展開されることが期待されます。

そうした中、気候変動による災害の激化と、生きものの減少を同時に解決するグリーンインフラとして、生きもので賑わう調節池・遊水地が大きな注目を浴びています。30by30の達成に向けては、自然保護地域の拡大が必要ですが、生きもので賑わう調節池・遊水地は「自然共生サイト」として貢献できる可能性があります。一方、こうした調節池・遊水地の機能を持続させるには、民間の取組も重要になります。

この研修会において、「30by30」「自然共生サイト」「多様な主体の連携・協働による水辺の再生」に関する最新の知見を情報共有させていただき、行政・企業・団体の皆様のSDGsの取組のご参考にしていただければ幸いです。